

第233回J.I.フォーラム 島のくらしから考える
—淡路・奥尻・佐渡の魅力、生かし方—

それは、未来をつくれるか。



3島現地調査概要（淡路市、奥尻町、佐渡市）

2017年2月23日

構想日本 政策アナリスト（島研究家）

片桐 幸雄

「島である」ということと「離島である」ことの違い



兵庫県淡路市

人口: 45,279人 (推計人口、2017年1月1日)

面積: 184.35 km² (参考: 淡路島592.55km²)

特徴: 明石海峡大橋で神戸市と結ばれている、住民には「島」民だという意識はほとんどない



新潟県佐渡市

人口: 57,465人 (推計人口、2017年1月1日現在)

面積: 855.61km² (淡路島の約1.5倍)

特徴: 住民は、面積とは無関係に「島」民と思っている。ただし、「離島」というイメージはない



北海道奥尻町

人口: 2,799人 (推計人口、2017年1月31日現在)

面積: 142.97 km²

特徴: 佐渡島の約1/6の面積であり、「離島」である

<島の共通目標>

『いつかきっと帰りたいくなるまちづくり』



このことはいずれの3島でも聞かれた

『帰ってきたくなるまち』とはどういう町か



豊かな町？それとも暮らしやすい町？

誰に『帰ってきたくなる』ようになってほしいのか

- ・若者
- ・壮年
- ・高齢者
- ・子育て世代
- ・出産予定者



なべつる岩(奥尻町)



明石海峡大橋(淡路市)

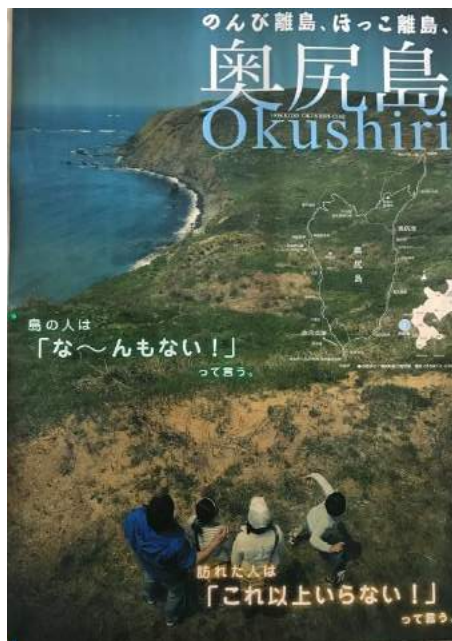
『いつかきっと帰りたくなるまちづくり』

本当に「島には何も無い」のか？

- ・ゆったりとした時間（島時間）の流れがある
- ・食べ物がたくさんある
- ・豊かな自然の存在
- ・歴史の『物語』の存在（島内のあちこち）



佐渡金山(佐渡市)



奥尻観光ポスター(奥尻町)

※島内の人はこのことの貴重さを気づいていないのではないか “住民は

- ・ 島は暮らしやすい
- ・ 島で困っているものはない

という意見が多かった。”

➡ 島のくらしに不満はない

<島の良さ>

- ①強いコミュニティの維持（お互いの顔が見える近さ）
- ②島の暮らしは安全（無施設）
- ③島で生活が完結している
- ④ゆったりとした時間（島時間）の流れがある
- ⑤お金があまりなくても暮らせる（食べ物のやりとり等）



ホヤ石の滝（奥尻町）



トキ（佐渡市）



行商の女性（淡路市）

<島の短所>

- 人口減が止まらない
(20、30代の島離れ、急激な自然減)
- 大学や専門学校へ通いにくい
- 医療・介護施設等が少ない
- 後継者がいない
- 働く場所(特に若者のための)がない
 - ※島外に働き先を見つけることができる(淡路市)
 - ※「働く場所がないのではなく、働く場所を見つける(作り出す)意欲がないのではないか」(佐渡市民の声)



町営のあわび養殖場(奥尻町)



プライミクス(淡路市)



学校蔵【旧西三川小】(佐渡市)

<島の強いコミュニティ>

- ・消防団・自主防災組織の高い加入率、組織率

※消防団加入率→淡路市(約3.9%)、奥尻町(約2.9%)、佐渡市(約3.2%)

- ・高齢化による自助・共助の困難

<防災教育と防災の伝承>

- ・震災経験職員の退職による伝承の困難化
→『語り部』としてのOB職員の活用
- ・若い世代への教育の効果(授業への取り込み)
→『記憶は薄れていく』ことを前提にした対策



北淡震災記念公園(淡路市)



大規模防潮堤(奥尻町)

<関係機関との連携>

- ・防災意識を高める取組みには関係機関の中で連携が必要

<まとめ(3島共通)>

- 島に住む人は、島のくらしに何も困っていない

<3島の特徴>

兵庫県淡路市

- ➡ 明石海峡大橋の開通により、物理的な島でなくなり、都市化・現金経済化が進んでいる

北海道奥尻町

- ➡ 経済的格差が少ない(住民は似たり寄ったりの生活)
- ➡ お金があまらなくても暮らせる(島内に魚屋がない)

新潟県佐渡市

- ➡ 佐渡の知名度は既に高い
- ➡ 島の集落単位で生活に差がある